

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 11 日現在

機関番号：32702

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370444

研究課題名(和文) 地理的変異に基づくスペイン語の統語研究

研究課題名(英文) Syntactic studies of Spanish based on geographical variation

研究代表者

高垣 敏博 (Takagaki, Toshihiro)

神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：00140070

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：スペイン語圏の都市でアンケート調査を実施することにより、スペイン語文法における重要な統語的テーマの地理的変異を明らかにし、統語研究に生かす目的をもつ。それまでの12年間にわたる調査・研究に加え、新たにこの3年間の調査により、スペイン10地点、ラテンアメリカ14都市での調査を終え、多くのデータを収集することができた。この成果は、本研究のHPで見ることができる。

また、スペイン言語学の泰斗イグナシオ・ボスケ博士とエンマ・マルティネル博士を招聘し、本研究の評価をしてもらうとともに、今後の研究発展のための助言を得ることができた。

研究成果の概要(英文)： This project aims at obtaining diatopic linguistic data on Spanish syntactic variation based on questionnaire. The data offered in 10 Spanish universities as well as 14 Latin American ones are accumulated in our data bank. It has served to elucidate various grammatical problems of the language.

In the last three years we have been able to invite Dr. Ignacio Bosque, and Dr. Emma Martinell from Spain, who helped us to evaluate objectively our on-going research and provided us with useful suggestions for our future study.

研究分野：スペイン語学

キーワード：言語学 スペイン語学 言語地理学 統語論 地理的変異 言語地図 パラメーター

1. 研究開始当初の背景

(1) スペイン語は広域使用言語で、スペイン、ラテンアメリカを含め、世界の 23 の国と地域で用いられている。当然のことながら、地域的な変異は大きく、同じスペイン語でも各地の特色が見られる。方言論や言語地理学的な研究は伝統もあるが、スペイン語の文法、即ち統語的側面に特化した調査・研究は本研究を開始した 1990 年代初頭にはわずかではなかった。現地におけるアンケート調査をもとにして、構文上の差異を採集し、集積したデータを基に、文法のさまざまな分析課題に取り組む本研究も 15 年が経過し、十分な成果があがってきた。

(2) スペイン語文法で問題として取り上げられることが多いテーマの地域的な変異についてはトピック的に知られていたが、これを可能な限り地域を包括し、分析・報告されたことはあまりなかった。各国・各地域での使用実態、および、同一基準で課題を比べることが全体を俯瞰する可能性を与えてくれると考え、その主旨に沿った研究を進めていくことができたといえる。

2. 研究の目的

(1) スペイン語の文法研究の中で問題となる統語現象(叙法、人称代名詞、再帰代名詞、関係詞、性・数の一致、主述の一致、語順、ボイスなど 20 程度のテーマ)の使用実態を地理的バリエーションの観点から捉えなおし、新たな分析・研究方法を提示することを中心課題とした。スペイン語は 23 の国や地域で用いられる広域使用言語であるが、スペインとラテンアメリカ(以後、ラ米)における 30 程度の地点で共通の文法変異アンケート調査を実施し、得られた結果を数値化し、比較・相対化することにより、これまで前例がない「スペイン語文法」のいわば「方言地図」を作成し、文法研究に地理的変異という新たなパラメータを導入する目標をもっていった。

(2) 未調査地でのアンケートを補完するとともに、今期はまた本研究の「まとめと評価」のステージとする計画を立てた。内外のスペイン語研究者の客観的評価を受けることにした。

3. 研究の方法

(1) ある言語の文法において、同一の機能をもつと考えられる複数の形式の間で交替が見られることがある。その交替が何らかの意味的違いによる場合もあれば、その他の要素に起因することもあるだろう。そのときにある地域で使用されるその言語の一変種(例えばマドリードのスペイン語)を観察しているだけでは不明な実態も言語のより広い分布の中で他の変種を視野にいれることにより鳥瞰が得られることがあるだろう。地理的バリエーションというパラメータを考慮することにより、スペイン語の文法研究に新たな視点を求めようとするのが本研究の着想の原点であった。

(2) 例えば、「～へ入る」という意味の動詞 *entrar* 「入る」+前置詞 *en* / *a* 「～へ」という前置詞の交替で、一般的にはラ米では *a*、スペインでは *en* が用いられるとされるが、アンケート調査の結果から、実際には双方で使用頻度が近似すること、またラ米の結果も同様ではなく、むしろスペインに似る使用比率の都市があることも確認された。

また弱形人称代名詞の対格・与格形式の通時的変遷について、一般に「文法機能」を中心とする体系が、「過渡的」体系を経て、「指示物主体」の体系へと移行していくと推定される(Los Mozos, S. 1984; Fernández-Ordóñez, Inés 1999)が、使用実態の調査結果を比較することにより、「ラ米一般」、「スペイン一般」、そして特に「スペイン首都圏」に代表される 3 地域が地理的にこの 3 段階に対応していることがアンケート結果から確かめられてきた。

【弱形代名詞の通時的変遷と地理的変異の対応】

	単数			単数			単数	
	男性	女性		男性	女性		男性	女性
対格	lo	la	対格	lo/le	la	対格	le	la
与格	le		与格	le	le	与格	le	la

<左の表から機能的体系(ラ米一般) 過渡的体系(スペイン一般) 指示的体系(スペイン首都圏)と変遷>

(3)上述のようなおよそ 20 の統語現象(課題)を含む構文をアンケート冊子にし、現地の主に大学で学生を被験者(各地 20 名程度)に対して文法性を問い、これを集計する。

14. Ellos entraron *al edificio.

Comunidad Autónoma	Muestra	N	Resultados		Total
			Correcto	Incorrecto	
Andalucía	Granada	20	1	19	19
	Málaga	20	1	19	19
	Sevilla	20	1	19	19
Aragón	Huesca	20	1	19	19
	Teruel	20	1	19	19
	Zaragoza	20	1	19	19
Cataluña	Barcelona	20	1	19	19
	Girona	20	1	19	19
	Lleida	20	1	19	19
Castilla-La Mancha	Albacete	20	1	19	19
	Toledo	20	1	19	19
	Valencia	20	1	19	19
Castilla y León	León	20	1	19	19
	Valladolid	20	1	19	19
	Zamora	20	1	19	19
Extremadura	Badajoz	20	1	19	19
	Badajoz	20	1	19	19
	Badajoz	20	1	19	19
Galicia	Lugo	20	1	19	19
	Ourense	20	1	19	19
	Vigo	20	1	19	19
Madrid	Madrid	20	1	19	19
	Madrid	20	1	19	19
	Madrid	20	1	19	19
Murcia	Murcia	20	1	19	19
	Murcia	20	1	19	19
	Murcia	20	1	19	19
País Vasco	León	20	1	19	19
	Valladolid	20	1	19	19
	Zamora	20	1	19	19
Valencia	Valencia	20	1	19	19
	Valencia	20	1	19	19
	Valencia	20	1	19	19
Canarias	Las Palmas	20	1	19	19
	Las Palmas	20	1	19	19
	Las Palmas	20	1	19	19
Ceuta y Melilla	Ceuta	20	1	19	19
	Melilla	20	1	19	19
	Melilla	20	1	19	19
Total		400	40	360	360

文法項目ごとの集計(スペイン)の例

その結果は、ウェブ上に HP を設けて、公開している。その上で、研究代表者、分担者がそれぞれ課題を選び、地理的変異に基づく、分析・研究を進め、学会などで発表、あるいは、他のプロジェクトとの情報交換、連携する。

4 . 研究成果

(1)本課題では、ラ米でいまだ実現できなかった、カリブ海のドミニカ共和国および中米パナマでのアンケート調査を実施することができた。この地域特有の不安定な治安ゆえに遅れていた現地調査であるが、プエルトリコ大学の言語学教授ルイス・オルティス氏の協力を得て、無事終えることができた。この成

果は新たなデータとしてデータベースに追加されることになり、分析もより綿密になることが期待できる。なお、中米の数ヶ国がいまだ未調査の状態であるが、これは近い将来に実現すべき課題である。

(2)これまで十数年継続してきた本課題研究の客観的評価をうけるステージにきているという認識であったが、予定どおり、スペイン言語学の権威ともいべきマドリッド・コンプルテンセ大学教授イグナシオ・ボスケ博士およびバルセロナ大学名誉教授エマ・マルティネル教授をこの間日本に招聘し、打ち合わせ、講演などを通じて、本研究への大きな示唆を得ることができた。最終年度には、プエルトリコ大学教授のルイス・オルティス教授を招き、協力を得た。ドミニカ共和国およびパナマの調査結果について報告を受けた。

(3)また、バルセロナ自治大学アンヘル・ガジェゴ氏率いる研究グループ『スペイン語統語地図』(ASINES: <http://www.asines.org/>)との研究連携も合意が進み、今後成果の相互利用などを進めることになっている。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

福嶋教隆、イスパニア語の tough 構文について(下の 3)、神戸外大論叢、神戸市外国語大学、査読無、66/2、2016、111-123

上田博人、Analizador lingüístico común con reglas gramaticales y diccionario, preparados por el usuario: Una aplicación para el análisis tipológico del léxico español, Lingüística Española Actual, Arco Libros, 査読有、37/2、2015、241-264

ルイズ、アントニオ、Análisis de más

con adverbios negativos en un corpus de *Twitter*, *Lingüística Española Actual (LEA)*, Arco Libros, 査読有、37/2, 2015, 201-214.

高垣敏博、Te digo dónde { es / está } el taller— ser の意味は?、*スペイン語学研究*、東京スペイン学研究会誌、査読有、29、2014、87-102

福嶋教隆、日本語に接続法は存在するか?、*神戸外大論叢*、神戸市外国語大学、査読無、65:3, 2014.1-25

宮本正美、Introducción a la programación para la investigación de la gramática española —AWK y LuaJIT—, *Lingüística Hispánica*、*関西スペイン語学研究*、査読無、37、2014、23-42

高垣敏博、Variación gramatical del español: Algunos resultados del Proyecto Varigrama, *Actas del Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica*, Instituto Cervantes, 査読有、2014. 248-264.

http://cvc.cervantes.es/ensenanza/biblioteca_ele/publicaciones_centros/PDF/tokio_2013/28_takagaki.pdf

〔学会発表〕(計 15 件)

- ルイズ、アントニオ、Tratamiento de datos geocodificados —Uso y distribución del español en *Twitter*—, II Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón, Instituto Cervantes, Tokio. 2016 年 10 月 3 日
- 高垣敏博、日本語の「行く / 来る」とスペイン語の “ir / venir”、日本スペイン語学セミナーSELE2016、金沢市キゴ山ふ

れあいの里研修館、2016 年 10 月 2 日.

- 福嶋教隆、モダリティについての日西対照研究、日本スペイン語学セミナーSELE2016、金沢市キゴ山ふれあいの里研修館、2016 年 10 月 2 日
- ルイズ、アントニオ、Corpus analysis, lexical variation and mapping technologies for Spanish”, in “Mapping Languages”, *Spatial Turn in den Geisteswissenschaften*, Academiae Corpora, Austrian Academy of Sciences, Vienna, Austria. 2016 年 9 月 17 日
- 上田博人、LYNEAL: Presentación de la herramienta de análisis de corpus”, *Jornada sobre Lingüística y Filología Digitales*, マドリード自治大学、スペイン、2016 年 9 月 14 日
- 福嶋教隆、スペイン語の 2 つの接続法過去について、日本ロマンス語学会第 54 回大会、九州大学、2016 年 5 月 21 日
- 高垣敏博、Verbos de movimiento en español y japonés, *Seminario de Máster en Lengua Española*, マドリード自治大学、スペイン. 2016 年 3 月 10 日 (招待講演)
- ルイズ、アントニオ、Using Geotagged Tweets in Spanish Linguistic Variation” (Tuits geolocalizados en la variación lingüística en español, 8º Congreso Internacional de Lingüística de Corpus, Universidad de Málaga, Málaga, スペイン、2016 年 3 月 2 日.
- 上田博人、Tratamiento lingüístico y matemático de textos digitales españoles: Presentación del Programa LEXIS-web, IX Congreso Internacional de la Asociación Asiática de Hispanistas, Universidad de Chulalongkorn, Bangkok, Tailandia, 2016 年 1 月 22 日.

- ルイズ、アントニオ、Cartografía digital en el proyecto VARILEX, ALFALito, Instituto Cervantes, 東京. 2015年10月4日
 - 福島教隆、Pasado, presente y futuro del subjuntivo en español、II Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón, セルバンテス文化センター東京, 2015年10月3日
 - 高垣敏博、接続法研究における”aserción” - 意味論から語用論へ、東京スペイン語学研究会、東京外国語大学、2015年6月27日
 - 福島教隆、Indicativo y subjuntivo. Reglas de uso, 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会(CANELA)第37回大会, 南山大学(名古屋市), 2015年5月16日
 - ルイズ、アントニオ、Queísmo y dequeísmo en *Twitter* – Uso y distribución geográfica –, 7th International Conference on Corpus Linguistics, CILC 2015, Universidad de Valladolid, スペイン、2015年3月15日
 - 高垣敏博、日本語とスペイン語の属性叙述受動文、日本スペイン語学セミナー SELE2014、ヤマハリゾートつま恋、静岡. 2014年9月2日.
- 〔図書〕(計6件)
- 野本京子・坂本恵、高垣敏博他、日本をたどりなおす 29の方法 国際日本研究入門、東京外国語大学国際日本研究センター編、「1章4節担当 依頼のEメール(スペイン語)」, 東京外国語大学出版会、2016、36-37
- 高垣敏博、初級スペイン語のすべて、IBMパブリッシング、2016、169
- 上田博人、María Jesús Torrens、El

nacimiento de la letra jota como grafía consonántica, Johannes Kabatek (ed.) Lingüística de corpus y lingüística histórica iberorrománica, Walter de Gruyter, Nördlingen (Germany), 2016、299-321

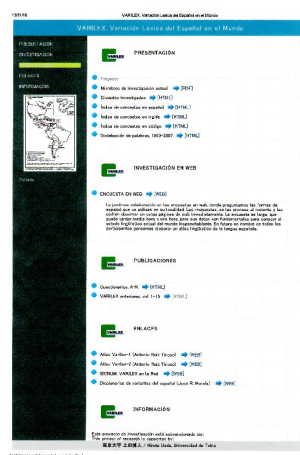
高垣敏博、福島教隆、上田博人他、スペイン語学概論(高垣監修共著)、くろしお出版、2015、293

山田善郎、福島教隆、宮本正美他、スペイン語大辞典(山田善郎ほか監修・共著)白水社、2015、2436

ルイズ、アントニオ、Análisis de sentimientos en el aula de español”, *Kommunikative Handlungsmuster im Wandel? ¿Convenciones comunicativas en proceso de transformación?*, (Nadine Rentel, Tilman Schröder, Ramona Schröpf 編), Peter Lang Edition, 2015、163-174

〔その他〕
ホームページ等

(<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/variagrama/index.html>)している。



本研究のHP

6. 研究組織

(1)研究代表者

高垣 敏博 (TAKAGAKI, Toshihiro)
神奈川大学・外国語学部・教授

研究者番号：00140070

(2)研究分担者

上田 博人 (UEDA, Hiroto)

東京大学・大学院情報学環・学際情報学
府・教授

研究者番号：20114796

宮本 正美 (MIYAMOTO, Masami)

神戸市外国語大学・外国学研究所・名誉教
授

研究者番号：20131477

福嶋 教隆 (FUKUSHIMA, Noritaka)

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：50102794

ルイズ・ティノコ, アントニオ

(RUIZ TINOCO, Antonio)

上智大学・外国語学部・教授

研究者番号：80296889